

●文献紹介●

【ニューメディア】

▼梶田光春：小児科医のためのコンピュータ連載5 e-mailの使いかた(1)
小児科診療 62(5): 775-781, 1999

▼梶田光春：小児科医のためのコンピュータ連載6 e-mailの使いかた(2)
小児科診療 62(6): 881-886, 1999

▼津坂昌利[他]：放射線診療の基礎 インターネット入門(34)ネットワークに対する攻撃 臨床放射線 44(1): 223-224, 1999

▼木幡砂智子：PubMedにおけるMEDLINEの特徴と問題点
医学図書館 46(1):28-35, 1999
インターネットMEDLINEの代表的存在である、Pub Medの検索方法のしくみについて、図書館員の視点からかなり詳しく述べられている。MeSHへの自動誘導 etc. Pub Medの特徴と言える様々な自動変換の詳細、それによる問題点について、OVID版のCD-ROMとの比較から述べられている。

▼田部井香織：PubMedの利用と情報サービスへの意義
医学図書館 46(1):22-27, 1999
米国国立医学図書館によるPub Med提供の背景と意義について述べられている。また、日本の医学図書館界におけるPub Medの位置づけや、その他の医療上に対して果たして行くべき役割についても触れられている。

【レファレンス】

▼棚橋佳子：Impact Factor による雑誌の比較を試みる
ほすびたるらいぶらりあん 24(2):91-94, 1999
インパクトファクター利用の際に知ってお

くべき事が、リストアップされている。またその特徴をふまえた上での活用法を、蔵書構成再考の課程にそって具体的に述べている。

▼棚橋佳子：JCRを正しく理解するためのキー・ポイント
ほすびたるらいぶらりあん22(3):117, 1997
雑誌の重要度・影響度を相対的に測るためのツール、JCRについて、JCRを提供するISI所属の著者により書かれたもの。雑誌の引用率を示すインパクトファクターの算出方法・JCRとよく混同される、SCIとの違い etc. についても説明されている。

▼甲斐靖幸：インターネット入手文献の参考文献欄への記載方法
医学図書館 43(4):495-496, 1996
電子雑誌の一文・電子図書を参照した場合の、参考文献の記述例があげられている。記載法は、D I S (I S O最終原案)に基づく。

【病院図書室】

▼保坂智美・宮内智子：これからの病院図書室10 図書室で使うインターネット 2 わたしのインターネット利用法
日本病院会雑誌 46(8):1295-1301, 1999
各著者の体験に基づき、Internetの利用方法及び、良く利用するURL・便利なURLが紹介されている。また、参考資料として「病院図書室業務に役立つURL」が目的別に一覧でまとめられている。

【EBM】

●単行本『EBM実践ワークブック よりよい治療をめざして』
名郷 直樹
1999

●文献紹介●

●文献紹介●

EBMのことが、まとめられた一冊。ほとんどのことが網羅されていて、文章も読みやすい。

- ▼名郷直樹ほか:日常臨床における問題解決のための情報源:1 ACP Journal ClubとEvidence-Based Medicine.
月刊地域医学 11(7):20-25, 1997
Evidence-Based Medicineを実践する際に用いる情報源の代表的存在であるACP Journal ClubとEvidence-Based Medicineの提供媒体の種類や実際の利用例などについて述べられている。オンライン版(Internet版)も紹介されているので、実際に入手を考えている場合の参考になりそうだ。
- ▼坂巻弘之ほか:「EBMにおけるリサーチライブラリアンの役割と養成:ワークショップ・プログラムの作成とその評価」
医学図書館 46(2):201-208, 1999
わが国においてEBMが医療に浸透するためには、リサーチライブラリアンの養成が急務であり、その研究事業が進んでいるとの報告。
- ▼名郷直樹:電子出版物 Cochrane Library
日本病院会雑誌 46(4):513-526, 1999
「全国図書館研究会(1998年10月)」での講演をまとめたもの。Cochrane Libraryの

有用性を、EBM(Evidence-Based Medicine)の解説にはじまり、14ページにわたってかなり詳しくわかりやすい言葉で紹介されている。

- ▼田部井香織:Evidence-Based Medicineを支える情報サービスのあり方と図書館員の役割:「EBMリサーチライブラリアンワークショップ」参加報告
薬学図書館 44(3):275-281, 1999
Evidence-Based Medicineの推進にあたり、図書館員をはじめとする情報専門家が果たすべき役割について検討会の参加報告がまとめられている。「リサーチライブラリアン」養成の必要性と具体案、厚生省のEBM及び「リサーチライブラリアン」についての関心度についても興味深い報告がなされている。
- 文献の入手は、所蔵館へお申し込みください。
- 「情報の科学と技術」・「Bulletin of Medical Library Association」は協議会で講読しています。
- 興味ある文献を分かち合いましょう。参考になる文献は、会誌編集部までお知らせください。